

暁斎

きょうさい

先駆の絵師魂！

父娘で挑んだ画の真髄

暁翠伝

きょうさい

The Kawanabe Kyosai Memorial Museum Ancestral Collection: Kyosai and Kyosui

The Soul of the Artist as Pioneered by Father and Daughter

- Bilingual (Japanese/English) Exhibition -

暁斎が愛した能楽・狂言～ 大藏彌太郎特別公演 [第2回 膏薬煉]

2018年5月5日(土・祝) 午後2時から1時間程度(開場は30分前)

会場：東京富士美術館/本館 ミュージアムシアター

料金：無料(ただし、展覧会の入場料金が必要)

申込：不要。定員200名

※当日正午より、公演会場入口にて入場整理券を配布(お一人様一枚配布)

出演：大藏彌太郎千虎

暁斎が描いた能・狂言画から、《膏薬煉》を公演。大藏彌太郎氏による演目解説に加え、子ども日特別企画として大藏彌太郎氏の指導による親子狂言体験も行います。ぜひ親子で狂言をお楽しみください。



撮影：国東薫

演者プロフィール：

大藏彌太郎千虎(おおくらやたるうせんとら)

昭和49年(1974)生。東京都在住。

能楽師大藏流狂言方。

公益社団法人能楽協会理事、同東京支部常議員。

大藏狂言SHIN-大藏三兄弟-長兄。

二十五世大藏彌右衛門の長男。

本名「基照(もとみつ)」。

祖父(故)二十四世大藏彌右衛門及び父に師事。

五才「以呂波」にて初舞台を経て、末広がり、千歳、那須、三番三、釣狐、花子の大曲を抜く。

平成10年、宗家に伝わる幼名「千太郎」を襲名。

平成28年、成人名「彌太郎 千虎」を襲名。



撮影：国東薫

■狂言・大藏流について：

大藏流は、現二十五世大藏彌右衛門虎久(とらひさ)まで続く能楽狂言最古の流派です。

宗家は代々幼名「千太郎」、成人名を「彌太郎」、宗家名を彌右衛門と称する事になりますが、特に十一世は織田信長公より「虎」の字を拝領し、彌右衛門虎政(とらまさ)というように虎の字のついた名のりをするようになりました。

十二世虎清(とらきよ)は豊臣秀吉に愛され流盛を拡大しますが、関ヶ原以降は徳川家康に仕え、幕府直属の狂言師となります。

1694年十五世緑虎の時代に、時の将軍徳川綱吉の上意により江戸に屋敷を拝領し、奈良から江戸へと移ります。

大藏流狂言には、宗家大藏彌右衛門家を筆頭に、茂山千五郎家、茂山忠三郎家、山本東次郎家、善竹弥五郎家の五つの家(五家)が存在しますが、流祖玄恵法印、二世彌兵衛より六百五十年余、現宗家虎久まで二十五世代を通じその流れを守っています。